

賀川豊彦の思想学ぶ

全中が 学習会 組合活動の重要性確認

J A全中などは24日、日本の協同組合運動の礎を築いた賀川豊彦の思想を現代に生かすための学習会「カガワ協同組合スクーリング」を東京都内で開いた。協同組合は個人や家庭の幸せづくりだ

けでなく、地域や国を豊かにするといふ賀川氏の思想を受け継ぎ、現代の協同組合が活動することの重要性を確認した。

日本生協連前会長の山下俊史氏はあいさつで「協同組合的な社会づく

りを目指した賀川氏の思想を振り返り、今日の実践に生かし、全員参加型の社会を目指していかなければならない」と述べた。賀川豊彦記念松沢資料館の加山久夫館長と三重大学の石田正昭名誉教授

が講演した。加山館長は賀川が理想とした、助け合いを基礎とした「協同組合経済」の実現のために、信用、共済、生産、販売などの事業を担う協同組合が一体的に活動することや、特定非営利活動法人(NPO法人)・社会的企業と協同組合が連携することの重要性を強調した。石田名誉教授は、協同組合が地域に貢献するため①J Aグループ岡山と地元生協が連携した地産地消②広島県での再生可能エネルギーの活用や介護、農業による雇用創出——など優良事例を他地域の協同組合に広げることの必要性を訴えた。学習会は同資料館などが主催。実行委員会に全中やJ A共済連、日本生協連などが入った。